

区民会議・子ども部会（第3回） 摘録

日時 平成19年1月29日（月） 午前10時～12時15分
場所 宮前区役所第2会議室
出席者 目代部会長、川西委員、末澤委員、福本委員、松本委員
事務局 企画調整担当原主幹、中山主査、東主査、成沢職員

開会

事務局事務連絡

- ・ 情報公開について
- ・ 12月22日の第3回区民会議の議論を踏まえ、1月19日、区民会議正副委員長と部会長から区長に報告を行った。
- ・ 本日は担い手の部分、特に赤ちゃん広場の拡充、子育て関連組織による協議会について、ご議論いただければありがたい。
- ・ 事務局としては、今回の議論をもって当初（7月）に設定された課題に対する部会の活動は終了と考えているが、その考え方、今後についてもご議論いただきたい。

議事：課題解決策の実現方法について（意見交換）

目代部会長：それでは始めます。赤ちゃん広場の拡充、子育て関連支援組織による協議会の立ち上げと運営に関する議論に入る前に、これまでの提案について、何か補足や意見等ないでしょうか？

川西委員：協議会の立ち上げが実現できれば、そこが色々相談し、課題を解決する場になるだろうという期待がある。ある程度これまでの提案に抜けがあっても、そこでカバーできるのではないか。

また、今回の提案の内容を受けて、行政からの情報や進捗があれば、教えていただきたい。

事務局：まだ今回の報告を受けて、今後どのように進めていくのか、役所内で議論していない段階であり、方向性も出されていない。担当課長としての個人の考えはあるが、それが区役所全体の考え方、方向性として共有されてはいない。

提案：健診時における情報の収集・発信について

川西委員：担い手のところで、保育園にこだわったのは、園庭開放の紹介や、こういう人達が保育士として地域で動いていますよという顔見世の意味だ。

福本委員：実際の健診の場で、情報提供ができるような場があるのか？順番待ちでゴった返していると聞いているが、

松本委員：待合室で順番を待っている時間が結構あり、その間にアナウンスをしたり、プリントをくばる、パネルを展示するなど、いろいろな方法でやれると思う。検診には、市の職員の方しかいないが、地元の保育園や、子育て支援センターの方々にも来ていただいて、何か用意して情報発信していただけると良いと思う。

末澤委員：年上の子を預かって、面倒を見てくれるスペースなどもある。小さな机一つ用意すれば、情報提供はできると思う。

川西委員：アンケート調査は重要な情報収集元になる。調査票は、簡潔でしかも自発的な意思がくみ取れるよう工夫が必要だ。子育て中の母親が答えやすく、データが使えるアンケートにしたい。調査の組み立てから市民参加でできないか。後で使えない無駄なアンケートになってしまう例は結構多い。

目代部会長：保育園担当のほうでアンケート調査をやるというような話を聞いたが、

事務局：10月20日の区民会議で概略を紹介させていただいたが、「親子の集い・居場所づくり推進事業」、「親子の子育て応援セミナー事業」がある。

「親子の集い・居場所づくり推進事業」では、これまで子育て支援センターや園庭開放などの現場で、アンケート調査などを行ってきた。例えば、「居場所と言えるところがあるか?」「それはどんなところか?」「どんな居場所を求めているか?」聞いた。先日のフォーラムでは、居場所について具体的なニーズをもっと整理していく必要があるという意見が出ていた。例えば、子育て支援センターに通っている方とそうでない方では、まったく考え方や要求が違う。健診の場で情報をすいあげるとするのは非常に良い提案だと思う。

「親子の子育て応援セミナー」は、今のお母様方は子育てに関する基本的な事が経験できなかったり、技術の伝承を受けられない環境にあるということで、遊び方・地域との交流・食育などのセミナーを、年間を通じて、決まったメンバーで開催する試みだ。

川西委員：セミナーの話は、出前講座にもリンクする話だ。今後は「ITとの関わり方」も重要なテーマになってくるだろう。携帯電話を小学校高学年から持つ時代であり、パソコンの所有率も上がる中、幼稚園や保育園世代にも、インターネット等を見たり触ったり、経験している子どもも増えている。

担い手については、それぞれのテーマに応じて、地域で実践的な活動をしている団体などを取り込めれば、どんどん広がると思う。

提案：町内会の組織を利用した効率的な情報発信

松本委員：ウェルカム宮前キャンペーンでは、情報誌を転入者に窓口で渡している。情報発信はわかりやすくまとめた形で行いたい。各団体の情報紙を回覧するのではなく、まとめたものを回覧する。「情報紙の再編」という表現はあまり良くない。

川西委員：町内会の回覧に、既存の情報紙をそのままの形で入れるのでは駄目だ。どこに行けば、何があるのか、情報をまとめるのは結構大変な作業であり、それらを考え、担う場と人材が必要だ。

福本委員：自治会に入ってくる情報は高齢者関連が多い。民生委員の関心もこれまで高齢者中心だった。最近活字離れもあり、配布物も見やすく、興味を引く為の工夫が重要だ。町会には月に10以上のチラシが回覧されているが、ワープロの物は情報量が多すぎ、手書きの方がかえって、目に留まることもある。最近目立っているチラシに交番からの回覧がある。

川西委員：地域の掲示板にも情報を貼りたい。掲示板は地域によってたくさん貼られている所とそうでないところと、非常に差がある。

福本委員：地域によって掲示板の利用状況は全然違う。私の地域(集合住宅)では、全体の他、各棟、各階段にも掲示板がある。

川西委員：情報を掲示するために、各町会に子育て情報に関する認識をもっと持ってもらう必要がある。

福本委員：掲示板は見ている人・いない人の差も大きい。私の地域では、回覧、全体の掲示板、各棟や階段の掲示板の三段構えで同じ情報を流している。

川西委員：将来的には健診も地域毎の身近な場所で行い、コミュニケーションの場にもなると良い。健診のデータは本庁で一括管理しているようだが、市民が協力して、あげるような形にすれば良い。

福本委員：高齢者に関しては、町内会館に保健士さんが来て、血圧の測定や相談業務などを行っている事例もある。昔は毎月やっていのが、三月に一度になってしまったが、結構人が集まる。控え室で町会から、防犯などの情報提供もあわせてしている例もある。

松本委員：お医者さんの協力が不可欠になる。健診の時間帯についても比較的小児の機嫌の良い午前中にやった方がよいなど、これまで様々な意見が出ている。

川西委員：お医者さんにとっても、自分の事業を紹介できるという意味でメリットがあると思う。

福本委員：私の地域では、他の地域の大病院に勤めている栄養士や医療従事者などに講演やお話を依頼することがある。謝礼は出せないが、送り迎えはするというご要望をされているが、結構お話をしてくれる方はいる。

松本委員：健診や予防接種は、利便性を優先して各人で診療所に行ってくれというような事ではなく、他の子供に会ったり、親と話す機会として必要だと思う。地域でまとめてというのはいいことだ。

福本委員：町会婦人部などで、会館などを提供し、その場を設定できるようになれば、子育ての伝承やご近所の絆もできる。

目代部会長：地域の活性化にもつながるのではないかと。

提案：公立保育園園庭開放などにおける積極的な声掛けの実施

特に無し

提案：子育て支援センターの拡充

川西委員：どんどん施設は増えている。

末澤委員：人的なサポートの充実も必要だ。特に大きいところでは、職員がそこまで目が届いていない現状がある。職員なりボランティアなり対応できる人が欲しい。

川西委員：資料に「普通に行くと経費を伴う」とあるがどういうことか？

事務局：例えば、土日解放など行くと、維持管理費など増えるので、そこをどう考えるかということだ。

松本委員：土曜日の解放や赤ちゃん広場を試験的に行なったら、働いている人だけでなく、お母さんを休ませてお父さんが子どもと一緒に来る例もあったと聞いた。

提案：公立保育園園庭開放の拡充

特に無し

提案：地域による公園管理の促進

川西委員：明日のコミュニティ部会でも出ていたが、公園は地域の財産であり、今後地元で管理がおりてくるという話もある。

福本委員：公園の管理を以前は公園事務所がやっていたが、権限を地域に下ろしてきており、管理をする団体に助成金を出している。

私の地域の公園では野川の方の地域から、年に二度ほど落ち葉で焼き芋などの活動をするために公園を使わせてくれとの話が来る。また最近新しい遊具ができ、公園に来る子どもが増えた一方で、フェンスが無かったり、犬を連れて公園に集う人も増えており、衛生上や安全面で問題となっている。

川西委員：公園緑地管理運営協議会というのは、公園毎にあるのか？どのような構成員で、どのくらいあるのか？

事務局：これまでも街区公園では、地元の町会の方などによる公園愛護会の方々に、清掃などをお願いしていたが、公園管理運営協議会はより多くの維持管理を地域の方をお願いするやり方で、現在区内で30ほどの協議会が立ち上がっている。公園毎に組織され、地域の方々や花や緑のボランティアな

どによって構成されている。この中に子育てグループも参加しながら、公園をより使いやすくする為の議論をしていただけると良いなと考えている。

目代部会長：公園管理運営協議会に参加している友人がいるが、清掃以外にどのような活動をしているのか、あまり知らなかった。他にどのような形で公園に貢献できるか、話を聞いてみたい。

川西委員：公園の利用者には本当にいろいろな属性の人がいて、様々なニーズがあり、どこで折り合いを付けるかが非常に大変だ。

福本委員：うちの地域では、管理などは当番制にしてやっている。日程などは各棟に任せており、落ち葉の大変な時期は町会全体から、ゴミ袋の提供などもしている。

川西委員：地域でそのようにルールを決められれば良い。

事務局：公園の使用許可を与える権限なども公園管理運営協議会におろしている。例えば、盆踊りなども公園管理協議会ので了承が得られれば、できるようになっている。

松本委員：公園管理運営協議会で公園に関する様々なニーズに折り合いを付ける場が作られることが重要であり、そこに子育て関係者も参加しやすいように、導かねばならない。きっかけづくりとして公園で、親子で参加できる催しをするなどの試みも必要ではないか。

事務局：飛森などの人達は、イベントは行なっているが、公園管理は行なっていない。公園管理とは別物であることは念頭に置いていただきたい。

目代部会長：公園管理がどのような活動をしているか、知られていない。知っていれば、手伝ってくれる親子もいるのではないか。その道筋をつくる。

福本委員：公園で集まっている母親達のグループから代表だけでも協議会に参加してくれると非常に良い。年寄りばかりでは、裁量の幅もせまく、融通が聞かないので、新しい物をなかなか受け入れられない。女性や、若い人にまかせた方が柔軟で、良い傾向がある。参加しやすい形もできそうだ。

提案：地域などへの出前講座の実施

川西委員：様々な分野で講座に関われる活動団体は地域にたくさんあると思う。その人達が担い手や協力者になるように進めたい。担い手は増やせるはずだ。

末澤委員：連続の講座ばかりでなく、テーマを絞った単発の講座も参加しやすいだろう。この日なら、このテーマなら、という人も参加できるようにしたい。

川西委員：幼稚園のお迎えの帰りに、公園で遊び方教室がやっているなど、企画の出し方によっても、参加の仕方、広がり方が違って来るだろう。

提案：子育て関連支援組織による協議会（ネットワーク）の立上げと運営

目代部会長：ここがやはり要になってくると思うがどうか？

松本委員：子育て関係の組織、ネットワークは現在もいくつかある。子育て支援関係者連絡会議では、行政や活動関係者が月1回集まって、情報交換や、かわら版の発行を行なっている。ただ、予算やきちんとした位置づけがない。これに近い形で、これまで関わっていないところにも入っていただき、地域で子育て支援する人達の会議になれば良いと思う。

末澤委員：情報をどこかでとりまとめて、ファイルしておく必要がある。そうしないと、似たようなイベントやアンケートをあちこちでやってしまうことになる。協議会で何をしていくのか、目的をきちんと持ち、位置づけをはっきりさせることが重要だ。子育てフェスタなどのイベントの担い手にもなり得るような、きちりとした組織があると良いと思う。

福本委員：地域の民生委員や児童委員で女性の方をネットワークの中心にしてやっていければ良いと思う。どこの誰だか、わからない形では責任感が無くなる。積極的にやってくれる人を取り込んでいく。

末澤委員：事務局的なものを最初にきちんとつくる。

また、そこに行けば何か情報が集まるという場所があれば、とても動きやすい。

川西委員：この部会は今回未就学児を対象としているが、子育て全般（未成年全て）で見ると、安心・安全協議会、校長会や園長会、地域教育会議など、実に様々な会議があり、様々な場で内容が重なる話がされている。これらの話を包括的にまとめる上位的なネットワークが必要だと思う。医師会や市民館など、子どもに関するあらゆる団体や専門職も入って、年数回集まって話し合い、課題やテーマの抽出、解決策の方法論や知恵を出し合うシンクタンク的な会合になると良い。

テーマが何か絞り込まれた場合は、そのテーマに合わせた下部組織、例えば子育て支援なら子支連（仮称）、安心・安全なら安心・安全協議会が事務局的な役割を果たせばいいのではないかと。そして、フェスタなどイベントの際は、そのために組織された実行委員会がさらにその下部組織的なイメージで動けば良い。今ある組織や活動を利用しながら、機能的に使いながら、役割分担していけば良い。

一昨年に開催された子ども総合支援関係者懇談会はそれに近いと思うが、、

事務局：子ども総合支援関係者懇談会は、平成17年12月に、学校関係者、保育園・幼稚園・学識関係者なども入って開催された。

目代部会長：提案を総合的にまとめる上部組織というのは良いと思う。そういう形でないとは動けない、決められない部分もあるだろう。集まっても言いつ放しでは、何にもならない。目的の無い、只の情報交換になってしまっただけではいけない。既存の会議とリンクして、区全体を見渡しながら運営していく。

目代部会長：いろんな組織や委員会がたくさんある。これらが一つになって動いて初めて見えてくることがあったり、動きやすくなることはあるだろう。

末澤委員：なんとなく、互いに入出入りして知っているのではなく、どこかでしっかり監督していて、全体の目的がはっきりしていることが必要だ。

福本委員：実際には同じ人間が、いろいろな所に入出入りしている。しかしそれぞれを見ると、それぞれの組織の事だけ考えていて、横のつながりができていない。

川西委員：個人的なつながりを、組織的、事業的なつながりにしていきたい。それがネットワークの目的であり、だんだんそうした動きが始まってきている。

福本委員：それぞれが独立してしまっただけで、縄張り争いになってしまうのが困る。

川西委員：特に年配の人に多い。最終目的は何かを考えて、協力しあうことが必要だ。

末澤委員：個人や単一の組織の中だけでは、なかなか整理のつかない状況でもある。

川西委員：「いつ」という実施時期が全部19年度中になっているが、大丈夫なのか。花火を打ち上げすぎではないか。でもこれが早く最初に立ち上がらないと動かないが、、

目代部会長：担い手、誰がということでは、子ども総合関係者懇談会関連組織、さらにまだ入っていない子育て関係者があれば入れる、増やしていくということ。

場所、どこでは、会議なので入らない。

対象は、この会議自体は子育て全般になるが、テーマにあわせて下部組織がある。

解決手法は、先ほどでたように全体で情報交換、テーマの絞込み、知恵を出し合うとことで良いか。

一同了承

提案：赤ちゃん広場の拡充

松本委員：赤ちゃん広場は現在区内7箇所で開催している。各月1回の開催で、保健福祉センターの広場が一番参加者が多い。多い時は足の踏み場がないほどだ。一番参加が少ないのが菅生分館で、スタッフの親子だけという時期もあった。

地図を見ると、偏りがある。拡充といっても、無い地域に増やすのか、人がたくさんいる地域に増やすのか、話し合う場が必要だ。また、現在のスタッフだけで広げるのは限界がある。

川西委員：空白地帯でどう開催するかはあるが、担い手をどうするかということが一番大きい。ネットワーク組織ができて、共通認識ができて、担い手がいなくては増やしようがない。

松本委員：地域によって特色が全く違う。担い手が足りないところもあるし、子どもが少ない地域もある。地域レベルで考えていく必要がある。話し合った結果によっては、カンガルーの主催にこだわる必要はなく、こ文が事務局になっても良いし、民生委員が協力的な所やできる所からでも良いのかも。

事務局：赤ちゃん広場の拡充という事は、場の拡充がメインと考えていた。担い手の問題もあるが、空白地域をどうするか。既存の活動の開催回数などを増やすのかという点があり、ご意見を伺いたい。白幡台などは実際にやっても、利用者があまり集まらないのではないかと考える。

川西委員：今ある赤ちゃん広場の設定は誰がやったのか。

松本委員：12年ほど前にカンガルーが地域の母親の集まれる場所を作ろうと、活動を始めたのがきっかけ。2000年頃から保健福祉センターの保健士、2004年頃から保育園の協力を得ることができ、派遣をしてくれるようになった。それまではお母さんたちの自主的な形で月1回やっていた。

川西委員：赤ちゃん広場連絡会を召集して、現状認識を洗い出してはどうか。それはすぐできそうだ。

松本委員：年度始にはそういった場があると思う。

川西委員：先ほど白幡台は赤ちゃんの人数が少なく、集まらないだろうという話があったが、いかにも行政的な発想だ。優先順位を考える際にそういう見方があるのはわかるが、子育てに携わるものとしては、一人の赤ちゃんから大切に考えなければならず、空白地はなんとかしなければならぬ問題だ。大きなサロンを開く必要はないのだから、いろいろやり方があるはずだ。

赤ちゃん広場は宮前区の子育ての特色だと思う。カンガルーという一団体の活動だとしても、たくさんの方が集まっている。こういうお母さんたちを勇気付ける。それが宮前の方向付けだと思う。

松本委員：昔は施設に問合せがあっても、一団体がやっている行事なので、対応できないと言われたこともあった。今はそんなことは無いと思う。最近はこの文便りに掲載してもらったりもしている。

赤ちゃん広場だけでなく、民生委員のすくすく土橋やはとぼっぼ、個人でやっているサロン、民間のサロンなど、区内のサロンや広場をもっと宣伝したい。自由に来ていいことを知らないまま過ごしている人もいっぱいいるのではないかと。

末澤委員：一覧になっているとわかりやすい。名称がバラバラなもの、わかりにくい？

松本委員：平などは、菅生の方など結構遠くからやってくる人もいる。やってみないと、どのくらい利用者が来るかはわからない一面がある。

末澤委員：規模は小さくても、近くでやっていることにも意味がある。近所の母親と出会うことは大切だ。空白地帯の人こそ、近くに友達ができなくて悩んでいるのではないかと。

目代委員：だからこそ、町会などで、そうした情報が流れると良い。

川西委員：ここの担い手は、地域の自主的なグループが主になり、保健福祉センターや保育園、地域の民生委員。ボランティアも育てていかなければならない。

会場は、子文や町内会館を利用するのも検討すると言う話も出ていたが、先日ある校長と話したら、わくわくをやっている別棟で開催するのも良いねという話にもなった。休み時間に子供たちが来れば、

さらに広がるかもしれない。

福本委員：自治会の集会所は使用料を取ることが多い。子育て関係なら、自治会も理解して利用料を免除するとかいうこともできると良い。自治会の活動の一環としてやれば一番良いのだが。

川西委員：解決手法については、赤ちゃん広場の連絡会を拡大して、調整機能を持てるようになれば良いのではないか。子支連とは関係があるのか？

目代委員：直接的な関係は無いが、オブザーバーとして同じ人が出ている。

川西委員：組織同士での連動ができるようになれば良い。

部会の今後、積み残し課題等について

松本委員：働いている母親、働きたい母親への課題解決が少し不足している。単純に保育園を増やすのではなく、民間活用やファミリーサポート制度などできることがあるのではないか。心残りである。

川西委員：提言はいくつか出したが、多くは既存の試みに色をつけた程度で、今後のことを見据えて対策を練る部分も必要だ。今の専業主婦は、働きたい、自己実現したい、外へ出ておしゃれをしたい、潜在的な意識を持っている方が多い。子育てとの両立の為に地域で何ができるかを探りたい。

目代委員：虐待の問題もある。母親に対する精神的なケアが必要な場合が多い。虐待は他区に比べれば件数は少ないが、育児不安からくる育児放棄などは増えてきている。

川西委員：子育て中の母親から、社会の私たちを見る目が冷たい、理解が欲しいという声があった。

こうして、資料を見ていると、きれいにまとまった様に思えるが、新たな担い手、市民ボランティアの発掘こそがこれからの最大の課題であり、人材発掘の積極的な展開が必要だと思う。

目代部会長：子どもの預りの担い手には、意外に若い母親が多い。1人見るなら、2人も同じ。それでお手当てがもらえるなら、と積極的に活動している。

福本委員：企業にももっと意識をもって欲しい。ある程度パートの母親を雇っている所は企業内にも託児所を設けてほしい。そうすれば母親も休憩時間にちょっと子どもを見に行けて色々な意味で安心だし、良い。時代の流れでもあると思う。

川西委員：アンケート調査などによるニーズの分析や対応にも関わりたい。行政だけでやるのはおかしい。継続的な関わりが必要だと思う。

部会の今後について

事務局：当初課題設定した部分については、終わったという認識をしている。子ども全般でいえば、学齢時以降の問題や、今出された課題等については、企画部会で今後区民会議としてどのように新たに課題設定していくかということになると思う。

具体的にどう解決していくかは区民会議から離れていく。しかし、行政だけでできることでは当然なく、皆さんの団体を含む、様々な市民と協議をしていくことになると思う。

川西委員：子育てを巡る問題は沢山あるが、まず幼年期にこれからは力を入れなければ、その後の問題がどんどん増えるという認識が部会としてあった。様々な課題は全て関連しているので、今回の提案だけで役目は終わりという感覚にはちょっと違和感がある。今日出たような課題は、積み残し課題として、必ず討議を継続したい。場の検討でも、もう少しソフト面の部分についても話し合いたかった。

福本委員：今後どうしていくか。地域が関わりを持たなければだめということ。これだけでいいんだということはない。

目代部会長：言いつ放しで終わりではなく、ぜひ実現したい。議論できたのはすごく嬉しかった。その

イメージでこれまでも発言していた。子育てがどれほど大事か認識を広めたい。親のモラルの低下も、様々なコミュニティの問題も全て子育てが重要な鍵を握っているし、地域の土台である。今話題の給食費未納の問題もそうだ。ぜひネットワークをつくり、育児しやすい環境づくり、育児支援をしたい。

川西委員：情報収集は局面が次々変わる問題であり、それへの対応はネットワークが主導するまでは、行政だけでやり、報告だけするというのはおかしい。また、市民や地域の活動団体を「活用する」という言葉使いは止めていただきたい。「協働」である。

目代部会長：積み残しのところまで、今度の区民会議では報告させていただきたい。

松本委員：積み残しが気になっている。これで終わりと言われるとちょっと違和感がある。区民会議で取り上げる問題ではないかもしれないが、幼稚園に入りにくい環境、高い幼稚園代にも問題を感じている。子ども部会という名称ではなく、もっと絞り込んだ名称にすれば良かったのではないか。

事務局：今回で終わりというのはあくまで事務局の考え方である。

末澤委員：対応策がもうまく進まなかった場合、再度提案が必要となるのではないか。調査の結果や実践の段階で出てきた課題をフィードバックして、より良い流れにもっていくしくみがほしい。区民会議の方にも戻して欲しい。任期が変わったときにうまくつながっていくかどうかの不安もある。

福本委員：多くの事がまだ漠然としている。子育ては本当に難しい。ある程度形が出たとしても、どうやって継続していくか。時代の中で変わっていくこともあるだろう。

川西委員：私たちには断片的なことしか見えていない。情報収集をしっかりしましょう。区民全体の意思形成を図るままでは、なんらかの形で関わり続けたい。より広い視点が欲しい。

委員の補充はぜひ望みたいが、部会としては、ぜひ継続したい。

目代部会長：部会の今後については、継続したいということで、事務局と相談させていただきたい。

福本委員：企画部会と事務局は大変だと思うし、非常によくまとめてきてくれている。

(以上)